事業を通じた価値創造

1 木質素材の可能性拡大

社会課題・ニーズ　木質資源を活用し、カーボンニュートラルに貢献

木質資源のマテリアル利用を追求することで生活空間を”第2の森林“に

大建工業は、木材を貴重な資源として有効活用し、社会に貢献することを目指し創業しました。創業以来、木材の弱点を克服し良さを引き出す技術や、木材を余すことなく使い尽くす技術を磨き、さまざまな機能を付与した素材・建材を開発してきました。木はその成長過程でCO_2を吸収したあと炭素として固定し、その後マテリアルとして利用し続けることで炭素を貯蔵し続ける働きがあります。木材は再生可能な資源であることから、森林を適切に管理し、利用し続けるサイクルをつくりあげることにより、持続可能な社会の実現やカーボンニュートラルに貢献することができます。①適切に管理された木材の活用、②森林を守るための木材の活用、③余すことのない木材の活用の3つの視点で持続可能な木質資源の活用を追求していくことで、社会的・経済的な価値を創出し続けていきます。

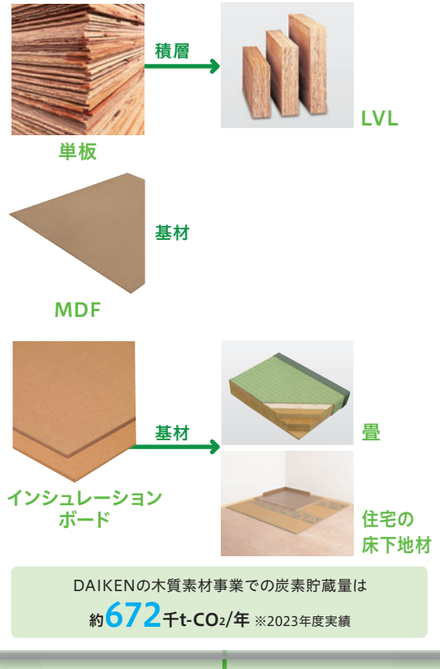
CO_2 **C 炭素として固定・貯蔵** CO_2

森林は炭素を吸収して固定する「炭素の貯蔵庫」

木材をマテリアルとして使い続けることで炭素を貯蔵し続けることが可能に

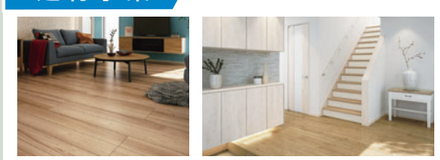
木材の価値を最大限に引き出し、マテリアルとして長く使い続けるための事業活動を行っています。

素材事業



DAIKENの木質素材事業での炭素貯蔵量は
約**672**千t-CO_2/年 ※2023年度実績

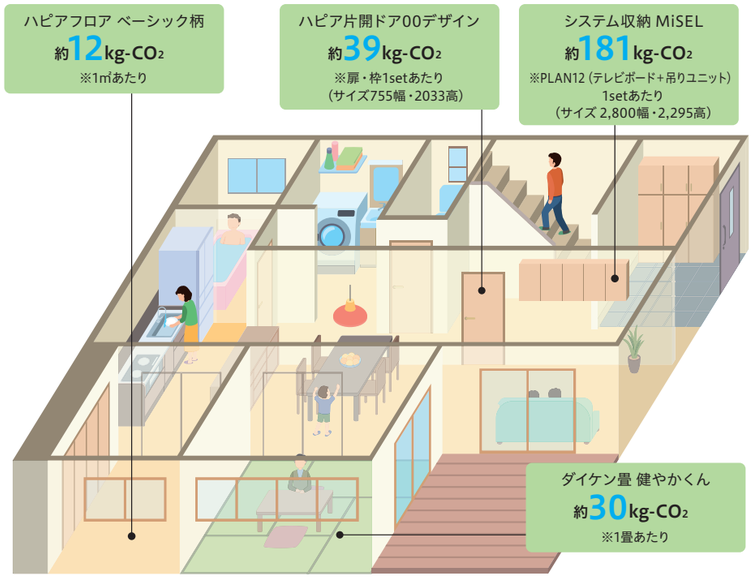
建材事業



木材の活用により「第2の森林」を形成

CO_2を吸収し、炭素として固定している木材を建築物に利用することで、長期間にわたって炭素を貯蔵することが可能になります。公共空間・住空間を「第2の森林」として育て、人々の生活空間の豊かさとカーボンニュートラルの両立を目指します。

DAIKEN製品を住宅に使用した場合の炭素貯蔵量



住宅一棟当たりのDAIKEN製品 炭素貯蔵量
約**2,372**kg-CO_2

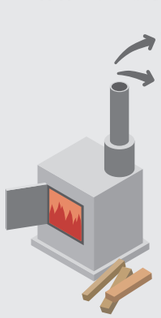
※林野庁「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」の計算方法に準じて算出
※戸建て、2階建て、延べ面積115m²で算出した場合の数値

解体

建築解体木材

燃やさずにマテリアルとして長く使い続けるためのサイクル

排出されたCO_2は森林により吸収



廃棄
焼却